た。表面に出なかった裏話になりましたが、生徒の情熱を受け止める私達が、若さを武器に生徒達の活動を指導し応援できたことに、今でもすがすがしい印象として残っています。

草創期のクラブ創立

ですから当時（23・24年頃）は、「先生、何とかクラブの顧問やってくれないか」と、生徒からの申し入れが隨分多かったです。私も野球を持つ前に、5回生の杉本、中山、福冨君等が、バスケット部を創ると言って、甲南大学のグランドに出かけたり、何もありませんから、南側の広場（小学校の校庭だった）に、近所の大工さんに頼んでバスケット・ボードを作らせましたが、図面を手書きで書いたり、焼跡からリングを捜してきたり、初代顧問の苦労談です。とにかく無い無いづくしですから、創る喜びというものを教師も生徒も共有していたように思います。中西先生は「何も無くても、相撲はできる」とご自身も選手として出られ、部を創られた。その他沢山頼まれて顧問を引き受けておられた。生徒達は「僕たちの学校、この地に創造の火を燃やすのだ」という気構えのようなものに、私たちは感動を覚えたし、積極的に応援もし指導もしました。前夜祭で踊り方（ストーム）を知らないから一緒に踊り教えもしました。そのような雰囲気がものすごく強かった。創って行こうという気持ちで生徒は動いていましたね。そんな印象が隨分強かったと思います。

第4回記念祭・前夜祭

古き良き時代の芦高

司会　そういう生徒の非常に積極的な姿勢、気風とか学校の雰囲気や文化部の様子などを、中西先生お願いします。

中西　何しろ私達は、教師になり立てのほやほや時代、偉そうに教師づらをしていても何もかも始めて、わからんことばかりでした。阪部校長先生をはじめ福田教頭先生ほか先輩先生方の経験豊かで心温まるご指導と実に素晴らしくはつらつとした自由自治の心で学ぼうとする生徒諸君の存在は、私にとっては偉大な環境だったことが思いだされます。新制高等学校発足、第1回生、第2回生、第3回生そして、併設中学生等には、いよいよ新しい意欲と熱意が充ちあふれていた。常に新しい問題を求め、発見してはその解決をはかり、先生も生徒も互いに豊かなふれあいの中で学んでいたというよき時代だったと思います。

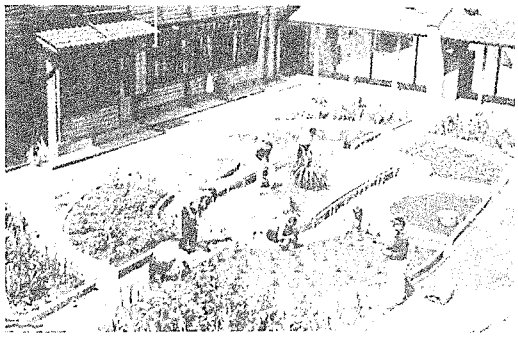
芦屋高校在職15年3ケ月の私ですから、思い出はいっぱいですが、面白おかしい私の綽（あざな）八戒について申しましょう。ある日、西宮コートでバレーボール大会があり、成績優秀での帰り道、当時のキャプテンO君から、〝先生ハッカイに似てますね！〟といわれたが、いったい何のことかピンともスッともわからなかった。〝おわかりでなかったらご案内しましょう。〟と阪神電車芦屋駅を下車し駅前の書店宝盛館まで行くと、店頭に並べられたマンガ本を見て下さいというのである。ドンドンひもといていく中に〝あった！アッタ！これや！コレ、コレー！よう似とる！〟と私の心は大動した。これが綽の決定的瞬間というものです。その後、芦高教師の数え歌の四番にも登場するのです。〝四ツとセー、よちよち歩きは八戒さん天竺道中まだ遠い、そいつァー剛気だネ剛気だネー〟というのです。しかしよくも私の風彩、体格、表情、顔つき等からユニークなニックネームをつけて呉れたものよと、今日なお大事な思い出としています。

新制高校発足当時は、校舎、校具、校庭その他の改修、補修なども中々進まず美しい学校とは申せませんでした。生徒諸君の中には、少しでも楽しく美しく気持ちのよい学校にしようと、校門附近の清掃や机や椅子の修理などを手始めに同志が集まり、美化同好会が誕生したのです。私は、図画工作科の担当として当てられたのでしょう？同好会の顧問となりました。勿論全国に魁けての快挙だったと思いま

早朝の清掃

す。昭和23年11月のことでした。１回生の杉本君、２回生の藤岡君や新田君、３回生の神戸君等全員の名前を挙げると可成りの数になりますが、運動部、文化部双方より元気旺盛の生徒諸君が参集して自主的活動を展開したものです。何といっても早朝作業であり、草ひき、道路掃き、雑巾がけなど誰でも思いはしても中々実行にはうつせないことです。椅子や机、ゴミ箱など一寸ぐらぐらしているのを見つけると、トントントンと気軽に釘打ちが始まるのです。不言実行本当によくやってくれました。一回生の杉本君が卒業式の場で善行賞を受けた事はなつかしく思い出されます。

それから、私が美術部と美化部の両部の顧問をしていたことから、本館南側の大中庭に花壇を造ることになったのです。そこで美術部の矢島君が設計担当し、美化部の越智君が総指揮をとって作業は進行したのです。木枠組み、セメントと砂の調合、肥土や苗の購入、材料用具の理解、習熟と技法研究など教科の学習時間、業間利用、放課後クラブの時間等巧みに活用して時を惜しんで頑張った結果、見事立派に完成したのです。各社新聞紙上に紹介され世間の人気をあつめたことでした。四季を彩る花が咲きほこり、全校教職員、生徒をはじめ、父兄、同窓生、一般の人々等すべての人の心を和ませてくれたことでした。また、美化部では、全校 H.R 教室及び特別教室等に配当する木製ゴミ箱を材料費のみで手造ったことがありましたが、大いに喜ばれました。



本館南側大中庭の花壇造り

それから昭和23年11月、第二十回兵庫県、中・高校絵画展の募集要項をはじめて目にして、出品制限一校三人三点とあったので、１年生・森川清君のほかに、１年生・牧野詠子さん、２年生・田畑精一君ら三人に出品してもらったところ、はからずも三人共に入賞、それぞれ一等賞、二等賞、五等賞と高成績を納めて単独学校賞を獲得したということは入賞者は勿論、学校当局一同、そして私担当者として極めてほまれ高い出来事だったと覚えています。その後転勤までに通算四度も学校賞をいただいたわけですがしあわせいっぱいでした。県芦屋の教育的雰囲気というか、学校一心、文体局一致というように、温かくかつ厳しく、学校内外からの強力なご支援と深いご理解があればこそと感謝申しあげたい。

また、相撲部では、ご父兄の中に、兵庫県相撲協会の理事の方がおられて、〝中西さん、あんた相撲部を作って欲しいんや、土俵も造る、応援もするよ〟ということだった。結局、顧問を引き受け、土俵も完成し部員も、今は亡き田鎖君をはじめ大仁君や杉本君、山下君らが相寄ってスタートした。毎日の練習の繰り返しの連続の中で、兵庫県高校相撲大会があり、これに初出場となったが、九位の好成績をあげ得たことを喜びあった。しかし、男女共学ということなのだろうか、次年度の相撲部は遂に育たなかったのである。

昭和26年だったか、新装独立図書館が堂々完成、その外壁に「蛍雪」と題して、大理石と人造大理石（テラゾー）による、縦十二尺・横十尺の大壁画のデザインを飯野校長先生の命によって担当させられたのであった。加えて校門に入って西側の藤棚の下

に緑陰図書閲覧室と名付けられ、そこには現代感覚に相応しい抽象的、幾何学的形体に造形されてテーブルや椅子などが次々設置された。美しい季節感たっぷりの緑陰を多様に利用しての目的は大方は果されたと確信しています。

図書館外壁・「蛍雪」と題する大壁画

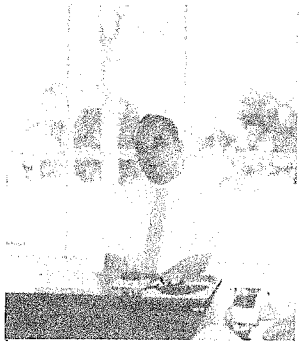
その外思い出は、筆舌に尽し難いと言える位多いのですが、昭和26年度の卒業式の際授与された技能賞（二科展入選・兵庫県小・中・高校絵画展入賞の牧野詠子さん）の楯のデザインを担当したが、また、卒業生全員に贈る自治会記念メダルは、昭和25年度（兎どし）卒業生より贈呈され、十二支を年々素材にして、昭和37年３月の卒業生（寅どし）まで贈られ〝兄弟〟は一巡して段落となったのです。さらに、県立芦屋高等学校記念祭旗のデザイン（飯野校長時代）とか、夏の高校野球全国優勝記念のバッジのデザイン、殆どのクラブの部バッジのデザインなど私の発達段階の未熟なものではありましたがその時その折にあって、見方、感じ方、考え方をその機に表現したつもりです。大変はずかしいとは思いますが、そのようなバッジや表紙のデザインその他が一部でもどこかに残っていると思えば感激です。一生かけがえのない思い出となるでしょう。

自主、自立、自治の精神を培った先輩の心を年々代々受け継ぎ、知・徳・体の教育目標に向って、指導された多くの先生方の情熱が、貴く尊い姿になって眼前に浮かびます。

「打てばひびく」という言葉がありますが、やはり、私達自身、未来を開く心豊かな人づくりを目指して、教育のための指導や助言が、個々の生徒たちに如何なる影響を与えているのだろうか。「訴える力があり、理解を深め高める教育はどうあればよいか。」必ず、山彦のように力強くはね返ってくるようでなければなりません。それだけに真剣味が大切です。信念のもと、教育効果を心に受けとめるまで頑張り抜かねばならないのです。

第２部　昭和30年以降の芦屋高校の移り変わりと現在の芦屋高校

記念祭や文化活動の充実と校風の確立



奥田竹先生

司会　昭和30年少し前から40年代前半くらいの間に、芦屋高校の校風の確立がなされ、充実期と言われる時期があったのではないかと思いますが、記念祭や文化活動の様子など奥田先生からお伺いしたいと思います。

奥田　「芦屋高校の校風の確立」というテーマに早速触れて恐縮なんですが、大学でも高校でもどの学校も出来て最初の10年くらいの努力というものがその後の学校の校風を大きく左右すると思っております。それで、昭和30年になると、はっきりした校風が出来ていたと思うんですが、ただ、先程からお話しになった先生方と同じように野球部は全国優勝した学年を１年から３年まで持たせて頂いて、その有難い思い出をもう一度味わいたいという個人的な気持ちもあって、ずるずるしているうちに教師としての生涯が終ったような気持ちがするんです。確かに20年代から30年代、特に30年代というのは、自治会活動が最も花開いた時期だと思うんですがね。これは「十五年史」「二十年史」の各クラブの活躍を見て頂いたら分かる。今、日本の芸術・文化・スポーツ等多くの方面でトップクラスにある卒業生が随分出ているということは、やはりこの時代の芦高が非常にすばらしいものを持っていたということを明ら